

科目名	ジャーナリズムの役割特論	担当教員	佐々木 伸
科目属性	専門科目群 E群	単位数	2 単位 (面接 0.5 単位)

### 【授業概要】

インターネットの劇的な発展による情報革命の結果、「ポスト・トゥルース」といわれる時代となった。スマホとSNSが全盛を極めるにつれ、フェイクニュース（虚報）が氾濫し、何が真実で、何がうそなのか、何が実際に起きているのか、起きていないのか、世の中の不確実性と不透明感は深まるばかりだ。

こうした時代にあっては、「真実・独立・公正」という3原則を掲げるジャーナリズムとメディアの役割と責任は一段と高まっていると言えるだろう。ジャーナリズムが社会の羅針盤となり、ゲートキーパー（門番）の役割を果たさなければ、課せられた機能の1つである「権力の監視」もままならなくなる。結果として社会や国民が多大な不利益を被ることになりかねない。今こそ、ジャーナリズムとその精神を具現化するメディアの存在そのものが問われていると言っても過言ではない。

本講では、社会でネット・メディアの比重が飛躍的に高まる中、政治、社会、経済、国際、スポーツ、文化、科学などあらゆる分野での日々の出来事を分析、検証しつつ、ジャーナリズムとメディアの果たすべき役割と責任がどのようなものなのかを探求し、実名・匿名報道、メディアスクラム、情報源の明示などメディアが抱える問題点も研究する。ジャーナリズム・メディアが共生社会を形成する上で、どのような手助けができるのか、またしなければならないのかについても考察する。メディア・ジャーナリズムを学ぶ上で基本となる講座である。

### 【授業の到達目標】

- 1、「ポスト・トゥルース」といわれる不確実性漂う今の時代を的確に分析、理解し、ジャーナリズム・メディアの果たすべき役割と責任、その針路を考察する。
- 2、ジャーナリズムの権力監視の役割を具体的な事例を研究しつつ考察する。
- 3、実名報道と情報源の明示がなぜ重要なのかを理解、報道の諸原則を確認する。
- 4、取材・報道する際の人権とメディアスクラムなど諸問題について研究する。
- 5、SNS全盛にあってフェイクニュースの生まれた背景やSNSの問題点と今後の在り方などについて考察する。

### 【授業計画】

授業計画としては以下の15回におよぶ内容となるが、教科書「ジャーナリズムの役割特論」（ダウンロード版）「ジャーナリズムの倫理と規範」などに基づいて総括的なスクリーニングを行い、突っ込んだ討議を行う。その後、2週間以内にレポート（2000字～4000字）を提出し、その評価を踏まえて、最後に科目習得試験を受けてもらう。

その上で、下記のような割合で総合評価を下すという形にしたい。（2単位）

- 1、どんな時代に生きているのか—不確実性と分断・対立の時代
- 2、激変するメディア環境—ネットの発展とポスト・トゥルース
- 3、ジャーナリズムの基本的役割と社会的責任—真実・独立・公正の3原則
- 4、報道と権力—調査報道の力
- 5、情報源の明示と信頼性
- 6、実名・匿名報道

- 7、誤報とねつ造
- 8、人権とメディアスクラム
- 9、写真・映像報道—1枚の写真が世界を動かす
- 10、戦争・紛争報道—危険地取材は必要か
- 11、国際ジャーナリズムの現状
- 12、トランプのメディア戦争
- 13、記事のスタイルと専門分野—政治、社会、経済、国際、スポーツ・・・
- 14、取材と記事の執筆
- 15、ジャーナリズム・メディアの未来

**【評価方法】**

評価は、スクーリング評価（25%）、レポート評価（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で行います。

**【教科書】**

「ジャーナリズムの役割特論」（佐々木伸 ダウンロード教科書）

「ジャーナリズムの倫理と規範」（藤田博司、我孫子和夫 新聞通信調査会）

**【参考図書】**

「実践ジャーナリズム養成講座」（花田達朗編著 平凡社）

「ネットメディア覇権戦争」（藤代裕之 光文社新書）

「ポスト真実の時代」（津田大介、日比嘉高 祥伝社）

「ポピュリズムとは何か」（水島治郎 中公新書）